

「モッケイ」

今月から母と同居を始めた高野です。

或る程度、年を重ねてくると、親の介護は切実な問題になってきますね。我が家は、まだ子供たちも小学生と中学生、子育て中の介護ですからなおさらです。

「お父さんはもう亡くなったとね？」

「うん、23年前(笑)」

父が亡くなったとき、走り去ろうとする霊柩車を追っかけ、膝から倒れて泣きじゃくる母はまるでアカデミー賞ものだったのに、こういう会話が数分ごとに繰り返されるとは・・・。

トイレだって寝室の横にあるのに迷子になり、水の流し方も毎回尋ねられる始末。

明け方3時ごろに1回目覚めてトイレを探し始めるので、毎回同行します。

実はこの春まで一人暮らしだった母。幸いなことに3人の子どもの週一サポートで問題なく暮らせていたのですが、認知症が進行し、昨年末にケアマネから住まいのガスを止められると、一層、症状もひどくなりました。

そこで今月から勇気をもって同居することにしたのです。(ショートステイもかなり利用しています。)

それにしても家内は立派です。何を何回言われても見事に笑顔でかわすさまに感心します。

私はというと親が衰えるのは見るに堪えないものがあり、ついつい感情的になってしまいます。

「肉親じゃないからある意味、客観的に対処できるのよ」とは言いますがそれにしてもスゴイ。

そんな家内を見ていて「モッケイ」という言葉を思い出しました。昭和の名横綱、双葉山関が69連勝で止まったときに、「フレイマダモッケイタリエズ」と電報を打ったと言う、あの木鶏です。

闘鶏を育てる名人が王様の質問に答える故事が語源です。

鶏の訓練から10日たって王様が仕上がりを探ねると、

「空威張りして闘争心があるからいけません。」

更に10日、10日と待ち続け、ついに、他の鶏の声を聞いてもまったく動じない鶏になります。

すると名人は、「もう良いでしょう。他の闘鶏が鳴いても、まったく相手にしません。まるで木鶏のように泰然自若としています。その徳の前に、かなう闘鶏はいないでしょう」と答えたそうです。

幼い頃、自分たち兄妹が母に変えてもらったオムツの枚数に比べれば、まだ数日。

正直、いつまで我が家で母を見てあげられるかもわからない状況ですが、家内が言うように「1日1日クリア」していく以外にありません。

先を考えず木鶏を目指しなさい。母の介護は、そういうことを私に教えようとしているのかも知れません。